

1. 調査報告概要表

作成日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入)
法人名	株式会社 ヒョウゴナカムラ
事業所名	グループホームさわやか
所在地 (電話番号)	鳥取県米子市皆生温泉1丁目16-10 (電話)0859-38-5288
評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1
訪問調査日	平成20年8月27日

【情報提供票より】(20年 7月 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16年 3月 7日
ユニット数	2 ユニット
職員数	15 人
利用定員数計	18 人
常勤	14 人
非常勤	1 人
常勤換算	14. 人

(2)建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	鉄骨造り	
	2階建ての	2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1200 円	

(4)利用者の概要(7月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名	
要介護1	2 名	要介護2	5 名			
要介護3	7 名	要介護4	3 名			
要介護5	1 名	要支援2	名			
年齢	平均	86.5 歳	最低	79 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	加藤クリニック、やざき医院、坂根歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

皆生温泉の中心部に位置し、既存の保養所とマンションをリフォームしたホームである。併設のデイサービスにある共同の温泉浴を毎日でも利用する事が出来る。いずれのユニットも2階であること、別棟になっている事など建物の構造上の難点を職員が工夫と気配りでおぎない、おだやかな生活を提供している。地域との結びつきを重視し、地区の自治会にも加入、地域の一員として利用者と一緒にボランティア活動や行事等にも積極的に参加。また、近くの温泉施設の足湯が楽しみで再三出かけ、地域の中に溶け込もうと努めている。介護度が重くなっていく利用者に対して、行政やかかりつけ医及び訪問看護サービスと連携し、ホームとしてできることを家族とも相談しながら支援を続けている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価の結果を踏まえ、地域との結びつきを重視した理念を作り上げ、自治会にも加入し、地域活動に前向きに取り組んでいる。困難事例は市町村担当が事業所に向かいの合同カンファレンスで協働関係を構築、サービスの質の向上に繋げている。防災対策や全職員が働きながら学ぶ機会の確保なども引き続き検討されることを望みます。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、職員全員で話し合うことにより、日々のケアをより客観的に見つめる機会として活用されたい。又、外部評価の結果は会議で報告、勉強会で話し合い、できることから改善に努めているが、個々の改善計画書を作成し、具体的な改善に取り組んでいかれることを期待しています。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 地区のメンバー等との調整がなかなか困難で前回の評価以降1回も開催できなかったが、自治会に加入したことをチャンスと捉え、早速 会議開催の準備に取り組んでいる。地域に開かれたサービスとして質の確保が図られ、事業所と地域住民との交流が、一層促進することを望みます。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 月1回 写真や日頃の活動など状態が一目でわかるような状況報告書などや年4回手作りの家族新聞を発行し、職員の異動なども家族に送付報告している。「日頃小さな事でも詳細に連絡を受け安心できる」との家族からの声も聞かれる。苦情相談は管理者が家族より直接意見を受けるケースが多く、速やかに対応し、それらを運営に反映させている。家族会の開催が中断されていたので評価を機会に開催予定である。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地区の自治会への加入。自治会活動として「ゴミポイ捨て禁止」の看板作り、地区の音楽祭やひな祭り等に車椅子で参加など地域の人々の中に気軽に出て行けるようになった。今後は公民館活動にもどんどん参加していきたいと意欲的である。手作りのホーム便りを利用して利用者の暮らしぶりや行事案内など発信し、地域との連携を深め、地域と支え、支えられる関係が築かれていくことを望みます。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の評価の結果を踏まえ「地域住民の一員として、穏やかにいきいきと生きがいを持ってその人らしく暮らして行けること」と地域密着型サービスの意義を重要視した理念に作り変えた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営規程の運営方針に「地域との結びつきを重視し、地域活動にも積極的に参加する」「公共施設の活用を図り、保健、医療、福祉施設との連携に努める」の2項目を追加した。会議の折に管理者と職員で理念を確認し、又 理念は施設の各所の目につきやすい所に掲示して実際のケアに活かしている。		管理者や職員は、今後も日々のサービスの中で、理念が活かされるよう、意識を持ちながら支援されることを望みます。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年の4月から地区の自治会への加入された。自治会活動として「ゴミポイ捨て禁止」の看板作りをしたり、地区の音楽祭やひな祭り等に車椅子で参加し、地域の人々の中に気軽に出て行けるようになって来た。併設のデイサービスと合同でボランティアとの関わりも少しずつ増えてきた。またこの秋開催される運動会にも参加予定である。		今後は公民館活動にもどんどん参加していきたいと意欲的である。手作りのホーム便りを利用して利用者の暮らしぶりや行事案内など発信し、地域の人々に気軽に遊びに来てもらえる施設になれるよう積極的に取り組んでいかれることを望みます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価を実施する意義を理解し、自己評価は職員全員で取り組み、外部評価の結果は研修会でも取りあげ改善に向け取り組んでいるが、話し合いの内容等の記録が不十分である。前年度の外部評価の結果については、できる事から改善に努めている。	○	自己評価については、職員全員で話し合うことにより、日々のケアをより客観的に見つめられる機会として活用された。又、個々の改善計画書を作成し、できる事から具体的な改善に取り組んでいかれることを期待しています。改善にむけての意見や見直し等の記録を残し、より計画的、継続的に評価を活かされることを望みます。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区のメンバー等との調整がなかなか困難で前回の評価以降 1回も開催できなかったが、自治会に加入したことをチャンスと捉え、早速 会議開催の準備に取り組んでいる。	○	地域に活かされたグループホームづくりのためにも、外部評価の結果の公表・防災対策への協力要請・困難事例の取組等など毎回テーマを決めて開催し、着実に地域の中に根ざした事業所として成長されること期待しています。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護や家族との関わりが困難なケースなど、市役所福祉課の職員を交えてのカンファレンスを実施している。市役所と共に話し合いや相談しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回 請求書と共に写真や日頃の活動など状態が一目でわかるような状況報告書と金銭出納帳を家族に送付している。年4回手作りの家族新聞を発行し、職員の異動なども報告している。「日頃、些細な事でも詳細に連絡を受け、安心できる」との家族からの声も聞かれる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書に苦情相談窓口が明示され、意見箱もあるが利用は殆どない。実際には、面会時に管理者が家族より直接意見を受けるケースが多く、速やかに対応し、それらを運営に反映させている。家族会は2ユニットで開催していたが都合がつかなく最近開催しておらず、近くユニット別の家族会の開催を予定している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	デイサービスやユニット間での職員の異動は殆どない。職員の異動や離職の際は、利用者説明を求めると共に、馴染みなるような場面を多くし、職員の異動等による影響を最小限に防ぐよう配慮されている。ケース担当の家族には電話でしらせ、面会時には他の家族にも紹介をし馴染みの関係づくりに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修や、同業者との交換研修を受ける機会の確保はされている。また個人的に研修に参加されることも多く、受講可能にする為、勤務調整を行なうなど支援されている。資格取得を管理者は奨励し数人はそれに向け現在も頑張っておられる。	○	地域密着型サービスの質は、非常勤やパート職員も含む個々の職員の質によって成り立っています。運営者は、職員の質の確保・向上に向けた育成が不可欠であることを理解し、具体化した方針を示し、職員全員が働きながら研修やトレーニングできるように早急に取り組まれることを望みます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年1回3日間のグループホームの相互研修を行い、そこでの研修や活動を通じ、サービスの向上につなげている。例えばシーツ交換日を以前は決めていなかったが、あるグループホームの取り組みをとりいれ個人ごとに曜日を決め、シーツの交換もれがないようにしておられた。	○	都道府県内等、また全国組織の同業者ネットワークに加入され、運営者はじめ管理者・全職員が他の同業者と交流する機会を多く持ち、活動を通して、貴事業所のサービスの質がさらに向上することを期待しています。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	過去には併設のデイサービスの利用から入所されるケースもあったが、現在は病院から直接入所になるケースが多い。家族に事前に見学に来てもらい、家族の実情や要望も含め本人の生活歴アセスメントを取っている。それを活かしたなじみの品を揃えるなど配慮し、早くからなじみの関係を築く工夫や支援をされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えが職員が共有しており、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係が築かれている。一緒に調理の下ごしらえや花の水やりや職員が録画してきたビデオを観たり、並んで足湯に浸ったりと日頃共に過ごす時間を多く作り、人生の先輩方から多くを学びお互いに協働しながら和やかな生活ができるよう場面作りや声かけをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成段階のアセスメント、日々の行動や会話の中で本人の思いや意向を把握し、できるだけ本人が満足できるように意見を尊重して検討している。意思疎通の困難な人は、家族等と話あい本人の視点に立って検討がされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の思い、ニーズの記録がある。主治医の意見を参考に、本人の希望を尊重しつつ、家族や関係者とも話し合いを行ないプランに反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月ミーティングでモニタリングを行ないプランと照らし合わせている。状況変化が生じた場合はその都度カンファレンスし、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	利用者それぞれのかかりつけ 医への通院介助が行われてい る。特に週3回透析に通ってい る方もあり、家族に代わって 必要な支援は柔軟に対応し、 個々の満足度を高めるよう努 力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかり つけ医と事業所の関係を築き ながら、適切な医療を受けら れるように支援している	本人・家族の希望するかかり つけ医、医療機関に受診でき るよう支援している。ケース により、ホームドクターの往 診も可能である。受診記録も 確認でき、職員間で受診結果 について共有できる仕組みに なっている。また家族にも細 やかな受診内容が説明されて いる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針 の共有 重度化した場合や終末期のあ り方について、できるだけ早 い段階から本人や家族等なら びにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有 している	事業所として基本的にはター ミナルは受け入れていない。 入所判定会議の場で家族には そのことを説明している。ター ミナルに近い状態の利用者の 場合は医師や家族等と密に連 絡をとりながら、全員で重度 化や終末期にむけたケアの方 針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシー を損ねるような言葉かけや対 応、記録等の個人情報の取り 扱いをしていない	言葉・態度・かかわりのスピー ドやトーンもやさしく対応さ れていた。虐待防止条例を施設 内の各所に貼ってあり、全て の職員が意識して取り組んで いる。記録物など個人情報保 護の取り扱いについても徹底 されていた。発行している新 聞の写真掲載も家族の承認が とられている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先 するのではなく、一人ひとりの ペースを大切に、その日をど のように過ごしたいか、希望 にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、 時間を区切った過ごし方はし ておらず、体調や気持ちを尊 重しながら、出来るだけ個別 性のある支援に努め、食事も せかすことなくその人のペ ースを大切に支援しておられ た。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は食材の買物や準備も利用者としてできていたが、年々高齢化や重度化が進み、現在は食材は配達をしてもらっている。事前に献立を話し、下準備を手伝ってもらっている。盛付や配膳なども利用者の体調を考慮しながら一緒に行なっている。肉の嫌いな方には魚料理に作り変えて提供している。食事は和やかな雰囲気、さり気なくサポートされていた。	○	以前は職員と利用者は、食事は一緒にしていなかったが、昨年の外部評価の改善点を話し合い、毎日1名の職員が交代で持参した弁当が摂られていた。利用者と一緒に職員も同じテーブルで食事を摂ることで話題も広がり、気付きや発見も多い時間帯であることから、是非、利用者と一緒に食事を楽しめる環境作りを前向きに検討されるよう希望いたします。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望者には毎日入浴が支援されている。併設のデイサービスの温泉浴は午後浴であるが、利用者の方は楽しみにしておられる。入浴拒否がある場合は、職員を変えたり、時間を見計らい誘い、無理強いをしないで、清拭等で清潔に配慮している。夜間入浴の必要性は認識しておられるが、利用者の重度化や職員体制の点で現在は取り組んでいない。身体汚染時にはホーム内のユニットバスで随時入浴を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花の水遣り・洗濯物たたみ・テーブル拭き・モップ掛け・食事の手伝い等生活歴を活かした役割や、誕生日用のケーキ作り・ボランティアと一緒にカラオケ・折り紙・ぬり絵・踊りなど楽しみごとや気晴らしの支援、特に施設長の「今日のニュース」の時間は好評で利用者等の眼がかがやいていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	なじみの美容院へ定期的に出かける方がおられる。散歩を兼ねて近くの温泉施設で足湯を楽しみ等、ドライブで近隣の名所や神社への初詣、車椅子の入居者も一緒に花見を楽しむなどそれぞれのレベルに合わせて戸外に出かけられるように支援している。しかし身体機能の衰えから外出を好まない利用者も増えてきており、メンバーが固定化になりがちである。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけないケアについて職員間で周知されている。時間・状況に応じて戸締りをしている。部屋等にも鍵をかけないケアを実践しておられる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	重要事項説明書に年2回夜間及び昼間を想定した避難訓練を入居者も参加して実施と記載ある。今年度は1回併設のデイサービスでの避難訓練に職員のみで利用者の参加はなかった。	○	入所者の参加、夜間の災害を想定した対応など避難誘導の取組、また 近隣の協力要請及び水・食料品・生活用品の備蓄についても早急に検討されることを望みます。災害に備えた具体的な避難策づくり、地域にも自治会や運営推進会議で協力を呼びかけ定期的に訓練を行なって欲しい。また備蓄の検討もあわせてされることを望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好を把握しながら、献立にいかすようにしており、その人の咀嚼状態に応じて、キザミ食にする等配慮がなされていた。食事量は記録されていたが、透析をうけている利用者を除き、水分量の記録はされていなかった。食卓には大きめの急須が置かれお茶のお代わりが出来るように配慮されていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光、匂いがないように配慮されており、トイレ掃除は頻繁におこなっている。季節感のある飾りがされ、居心地よく過ごせる共有空間であった。廊下に鉢ものを以前はおき、よりよい空間づくりがされていたが、植木を抜いたりされるためとのぞかれていた。しかし居室には生き生きとした植物の鉢物が飾られていた。		ベランダを安全に使えるよう工夫し、季節の花などを身近に育てる楽しみや生活空間が今以上に拡大するように検討されることを期待しています。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の生活暦を重視し、使い慣れた馴染みのタンスなどが持ち込まれていた。また手すりや防音パッキンを施設長自らとりつける等、居心地良く過ごせるように工夫されていた。		